

平成28年度自己評価シート(中間評価まとめ)

校番	199	学校名	広島県尾道南高等学校	校長氏名	高坂 学	定時制	本校
----	-----	-----	------------	------	------	-----	----

1 評価結果の分析

- 授業満足度は目標値を越え、昨年度よりも若干上がった。教育的な支援の観点に立ち、各教科で行っている教材作成や授業展開、考査問題、発問や言葉がけ等の工夫・改善の積み重ねの成果と考えられる。
- 特別支援教育支援員や教科アシスタントとの連携による授業は、支援や配慮を要する生徒のみならず、他の生徒に対しても、大きな効果をあげている。
- 校内授業研究会では、非常勤講師を含めた全教職員による参加体制をとることができた。授業では視覚的な支援や、見通しを持たせる「やることリスト」の提示など、「主体的な学び」や「課題発見・解決学習」の実践や工夫が見られ、その後の研究協議でも議論が深められた。
- 迅速かつ綿密な保護者・関係機関との連携をとり、ケース会議で情報を共有している。
- 今年度から施行された「障害者差別解消法」に基づき、「困難性がおきないための支援」をするために作成した「学校生活改善調査」の記入については、84%の生徒が自分を見つめ直す作業が可能になってきている。
- キャリア教育において、ジョブシャドウイングからインターンシップまでの一連の系統的な取組みにより、参加した生徒の96%が充実感や達成感を感じ、次なる行動に向けての意欲につながっている。
- 9月末現在、昨年度と比べて問題行動は減少している。また、8月末現在における長欠生徒も昨年度と比較して減少している。キャリア教育や特別支援教育を積み重ね、全教職員が共通理解の下、生徒一人一人の課題を共有し、連携を密にしながら取組を推進してきたことが、この結果に繋がっていると考えられる。
- 1学期の生徒会行事は、生徒総会の参加率が81.5%で昨年度と比べて7.1%増加しているものの、他の行事の参加率は昨年度と比べて減少した。
- 第1回目の「学校生活改善アンケート」生徒集約では、「学校に行くのは楽しいですか」の質問に、「楽しい」が23.4%、「まあまあ楽しい」が44.2%の結果で、約68%の生徒が肯定的に考えている。また、保護者集約では、「学校に子どもを安心して通わせることができるか」の質問に、「安心できる」が62.3%、「大体安心できる」が35.8%の結果であった。
- 今年度は様々な活動や行事等をホームページで紹介している。昨年度に比べて、広報活動が活性化しているのは、個人の力量によることも大きいですが、複数担当制が機能していることも一つの要因であると考えられる。
- 学校行事の改善が行われており、昨年度よりも改善したことをやっていこうという意識が高まっている。

2 今後の改善方策

- 個別の生徒に対する支援の観点や主体的な学習につながっているか、達成感・充実感が得られるものになっているかなど、各教科での取り組みについて、評価・分析する観点や方法を研究していく。また、授業における成果や課題の共有化を図っていく。
- 米づくり体験学習にかわる自然体験学習として、大豆づくりを計画した。体験活動の実施とその振り返りにより、自分を客観的・多面的に見つめ直す作業を積み重ねさせていく。
- 生徒の進路目標の実現に向けて、関係機関や保護者・教職員間の連携を深め、個別の指導計画や個別の支援計画・アセスメントを作成し、充実したケース会議を行う。
- 教育的な支援が充実した学校体制を構築するため、特別支援教育コーディネーターが中心となって、生徒指導上の様々な成功例、失敗例を出し合い、全体で協議しながら、より良い実践を模索していく。
- 「キャリア教育ガイダンス」「キャリア講演会」「生活体験文の記録」が、学年状況や個人状況を動かし、教育的な支援を行うことにより、生徒の自己肯定感を高めるものになるようにする。
- 全教職員がベクトルを合わせて生徒指導を推進していく。具体的には、10月以降は校内巡回(授業開始10分間の巡視等)を組織的・計画的に行い、生徒が安心して安全に通える学校づくりを推進していく。
- 生徒が安心して登校できる、安全で信頼される学校づくりに向け、組織的教育力の向上を目的とした教職員研修会を計画的・継続的にやっていく。
- 第1回目の「学校生活改善アンケート」は、生徒の回収率が約92%であったが、保護者はやや低迷した。2月実施の第2回では、回収率が上がるような取組を考え、実行する。
- ホームページについては、複数担当制をさらに機能化させ、必要な情報を速やかに提供すること、生徒や保護者のニーズに応じた項目の設置を考えていく。
- 生徒会の活動が活性化してきているので、生徒の意見を活発に出せる場面や、より多くの生徒が協議に参加できる場面を設定し、その意見が実現できるような取組を実践していく。

3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策

- ・学校関係者評価結果を踏まえて、評価指標の設定の在り方を検討する。
- ・学校関係者評価が低い項目を再検討し、その改善に向けての具体的な取組を考える。
- ・保護者や地域、外部機関との連携を今後も密に図ってほしいという意見を重視し、連携の在り方や情報の発信に向けて考察を深める。